

- 問1 てこを使って重い物を持ち上げるとき、てこを支える位置のことを何といいますか。
- 問2 てこの仕組みを使って重いものを持ち上げるとき、力を加えるものはどれですか。
- 問3 てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、どのように表されますか。
- 問4 てこを使って重いものを持ち上げるとき、手でてこを押し下げたり引き上げたりして、力を加える位置のことを何といいますか。
- 問5 てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、どのような計算で求めることができますか。
- 問6 支点と力点の間に作用点があるてこの仕組みを使った道具はどれですか。
- 問7 はさみやくぎぬきなどの道具で、作用点と力点の間にある点はどれですか。
- 問8 はさみで紙を切るとき、2つの刃が交わっていて、はさみ全体を支える位置にあたる部分を何といいますか。
- 問9 てこがつり合うとき、左側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値と、右側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値が等しくなるというきまりを何といいますか。
- 問10 てこを使って重いものを小さな力で持ち上げるとき、作用点と支点の間隔はどのようにすればよいですか。
- 問11 てこを使って重いものを持ち上げるとき、そのものに力がはたらいている「作用点」では、どのようなことがおこっていますか。
- 問12 1点でささえた棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを何といいますか。
- 問13 理科の実験などで、手で押し下したり引いたりする「力」を目に見える形で表したいとき、どのようなものにおきかえて表すことができますか。
- 問14 力点と支点の位置を変えずに、作用点を支点に近づけて重いものを持ち上げるとき、手ごたえと必要な力はどうなりますか。
- 問15 てこの仕組みを使った道具のうち、力を加える部分（力点）が、支える部分（支点）と仕事をする部分（作用点）の間にある道具を何と呼びますか。
- 問16 つり合っているてこでは、左右のうでの「てこをかたむけるはたらき」はどうなっていますか。

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 支点	てこを支える位置のことを「支点」といいます。
問2	答え ささえた棒	てこは、1点でささえた棒に力を加えることで、重いものを持ち上げる仕組みです。
問3	答え おもりの重さ×支点からのきより	てこをかたむけるはたらきは「おもりの重さ×支点からのきより」で表されます。
問4	答え 力点	てこを動かすために、手などで直接力を加える位置のことを力点といいます。
問5	答え おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）	てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、おもりの数（力の大きさ）と支点からのきより（長さ）の「積（かけ算）」で表されます。
問6	答え せんぬき	せんぬきは、作用点が支点と力点の間にあるてこの仕組みを利用した道具です。
問7	答え 支点	はさみやくぎぬきは、支点が作用点と力点の間にある道具の代表的な例です。
問8	答え 支点	はさみの刃が交わる部分は、はさみを支える位置である「支点」にあたります。
問9	答え てこのつり合いのきまり	てこがつり合うとき、左右の「おもりの重さ×支点からのきより」が等しくなることを「てこのつり合いのきまり」といいます。
問10	答え 作用点を支点から近くにする	てこでは、作用点を支点から近くにするほど、重いものを小さな力で持ち上げることができます。
問11	答え ものに力がはたらく。	作用点は、てこを使ってものに力がはたらく位置のことです。手で力を加える位置は力点、てこを支える位置は支点です。
問12	答え てこ	1点でささえた棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを「てこ」といいます。
問13	答え ものの重さ	力の大きさは、台ばかりなどの目盛りを使って、ものの重さにおきかえて表すことができます。
問14	答え 手ごたえが小さくなり、小さな力で持ち上げられる	作用点が支点に近づくほど手ごたえは小さくなり、より小さな力で重いものを持ち上げられるようになります。
問15	答え 力点が間にある道具	力を加える「力点」が、支える「支点」と仕事をする「作用点」の間にある道具のことを「力点が間にある道具」と呼びます。
問16	答え 左右で等しくなっている	つり合っているてこでは、てこをかたむけるはたらきが左右で等しくなっています。

問1 てこを利用した道具である「はさみ」を使うとき、指で握^{にぎ}って力を加える部分は、てこの何にあたりますか。

問2 てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、どのような計算で求めることができますか。

問3 はさみやくぎぬきなどの道具で、作用点と力点の間にある点はどれですか。

問4 てこのつり合いのきまりによると、てこがつり合っているとき、「左のおもりの重さ×左のうでの支点からのきより」の値は、右側のどのような計算から求められる値と等しくなりますか。

問5 てこがつり合うとき、左側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値と、右側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値が等しくなるというきまりを何といいますか。

問6 支点と力点の間に作用点があるてこの仕組みを使った道具はどれですか。

問7 てこの仕組みを使った道具のうち、力を加える部分（力点）が、支える部分（支点）と仕事をする部分（作用点）の間にある道具を何と呼びますか。

問8 てこを使って重いものを小さな力で持ち上げるとき、力点と支点の間隔^{かんかく}はどのようにすればよいですか。

問9 てこを使うとき、支点と作用点の位置を変えずに、力点を支点から遠ざけていくと、手ごたえや必要な力はどのように変化しますか。

問10 てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、どのように表されますか。

問11 理科の実験などで、手で押し^おしたり引いたりする「力」を目に見える形で表したいとき、どのようなものにおきかえて表すことができますか。

問12 力点と支点の位置を変えないとき、重いものをより小さな力で楽に持ち上げるためには、作用点をどのように動かせばよいですか。

問13 力点と支点の位置を変えずに、作用点を支点到近づけて重いものを持ち上げるとき、手ごたえと必要な力はどうなりますか。

問14 てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを何といいますか。

問15 てこのうでをかたむける力の大きさを表すもので、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表されるものを何といいますか。

問16 空きかんつぶし器は、てこの仕組みを利用した道具です。この道具において、支点と力点の間にある部分はどこですか。

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 力点	はさみを使うときに指で握 ^{にぎ} って力を加える部分は、てこに力を加える位置である「力点」にあたります。
問2	答え おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）	てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、おもりの数（力の大きさ）と支点からのきより（長さ）の「積（かけ算）」で表されます。
問3	答え 支点	はさみやくぎぬきは、支点が作用点と力点の間にある道具の代表的な例です。
問4	答え 「右のおもりの重さ×右のうでの支点からのきより」	てこのつり合いのきまりでは、左右それぞれで「おもりの重さ」と「支点からのきより」をかけ算した値が等しくなります。
問5	答え てこのつり合いのきまり	てこがつり合うとき、左右の「おもりの重さ×支点からのきより」が等しくなることを「てこのつり合いのきまり」といいます。
問6	答え せんぬき	せんぬきは、作用点が支点と力点の間にあるてこの仕組みを利用した道具です。
問7	答え 力点が間にある道具	力を加える「力点」が、支える「支点」と仕事をする「作用点」の間にある道具のことを「力点が間にある道具」と呼びます。
問8	答え 力点を支点から遠くにする	てこでは、力点を支点から遠くにするほど、重いものを小さな力で持ち上げることができます。
問9	答え 手ごたえが小さくなり、小さな力で持ち上げられるようになる。	支点と作用点の位置を変えないとき、力点が支点から遠ざかるほど手ごたえは小さくなり、小さな力で重いものを持ち上げることができます。
問10	答え おもりの重さ×支点からのきより	てこをかたむけるはたらきは「おもりの重さ×支点からのきより」で表されます。
問11	答え ものの重さ	力の大きさは、台ばかりなどの目盛りを使って、ものの重さにおきかえて表すことができます。
問12	答え 支点到近づける	力点と支点の位置を変えない場合、作用点を支点到近づけるほど、小さな力で重いものを持ち上げることができます。
問13	答え 手ごたえが小さくなり、小さな力で持ち上げられる	作用点が支点到近づくほど手ごたえは小さくなり、より小さな力で重いものを持ち上げられるようになります。
問14	答え 作用点	てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを「作用点」といいます。
問15	答え てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ	てこのうでをかたむける力の大きさは、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表され、これを「てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ」と呼びます。
問16	答え 作用点	空きかんつぶし器は、作用点が支点と力点の間にある道具の例です。

問1 てこを使って重いものを小さな力で持ち上げるとき、力点と支点の間隔かんかくはどのようにすればよいですか。

問2 はさみやくぎぬきなどの道具で、作用点と力点の間にある点はどれですか。

問3 てこのうでをかたむける力の大きさを表すもので、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表されるものを何といいますか。

問4 てこを使って重いものを持ち上げるとき、手でてこを押し下げたり引き上げたりして、力を加える位置のことを何といいますか。

問5 てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、どのような計算で求めることができますか。

問6 てこを使って重いものをできるだけ小さな力で楽に持ち上げたいとき、支点と作用点の位置を変えないとすると、力点の位置をどのようにすればよいですか。

問7 力点と支点の位置を変えないとき、重いものをより小さな力で楽に持ち上げるためには、作用点をどのように動かせばよいですか。

問8 てこを利用した道具である「はさみ」を使うとき、指で握にぎって力を加える部分は、てこの何にあたりますか。

問9 空きかんつぶし器は、てこの仕組みを利用した道具です。この道具において、支点と力点の間にある部分はどこですか。

問10 てこのつり合いのきまりによると、てこがつり合っているとき、「左のおもりの重さ×左のうでの支点からのきより」の値は、右側のどのような計算から求められる値と等しくなりますか。

問11 つり合っているてこでは、左右のうでの「てこをかたむけるはたらき」はどうなっていますか。

問12 台ばかりを上から指おしで押したときに、針が100gを示したとします。このとき、指が加えている「100g」という値は、何の大きさを表したものでしょうか。

問13 支点と力点の間に作用点があるてこの仕組みを使った道具はどれですか。

問14 てこを使って重いものを小さな力で持ち上げるとき、作用点と支点の間隔かんかくはどのようにすればよいですか。

問15 てこがつり合うとき、左側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値と、右側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値が等しくなるというきまりを何といいますか。

問16 力点と支点の位置を変えずに、作用点を支点に近づけて重いものを持ち上げるとき、手ごたえと必要な力はどうなりますか。

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 力点を支点から遠くにする	てこでは、力点を支点から遠くにするほど、重いものを小さな力で持ち上げることができます。
問2	答え 支点	はさみやくぎぬきは、支点が作用点と力点の間にある道具の代表的な例です。
問3	答え てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ	てこのうでをかたむける力の大きさは、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表され、これを「てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ」と呼びます。
問4	答え 力点	てこを動かすために、手などで直接力を加える位置のことを力点といいます。
問5	答え おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）	てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、おもりの数（力の大きさ）と支点からのきより（長さ）の「積（かけ算）」で表されます。
問6	答え 力点を支点から遠ざける。	てこを楽に使うためには、力点を支点から遠ざけることで、手ごたえを小さくして小さな力で持ち上げられるようになります。
問7	答え 支点に近づける	力点と支点の位置を変えない場合、作用点を支点に近づけるほど、小さな力で重いものを持ち上げることができます。
問8	答え 力点	はさみを使うときに指で握 ^{にぎ} って力を加える部分は、てこに力を加える位置である「力点」にあたります。
問9	答え 作用点	空きかんつぶし器は、作用点が支点と力点の間にある道具の例です。
問10	答え 「右のおもりの重さ×右のうでの支点からのきより」	てこのつり合いのきまりでは、左右それぞれで「おもりの重さ」と「支点からのきより」をかけ算した値が等しくなります。
問11	答え 左右で等しくなっている	つり合っているてこでは、てこをかたむけるはたらきが左右で等しくなっています。
問12	答え 力の大きさ	台ばかりを指で押 ^{おし} したときの重さの示し方は、指が加えている力の大きさを表しています。
問13	答え せんぬき	せんぬきは、作用点が支点と力点の間にあるてこの仕組みを利用した道具です。
問14	答え 作用点を支点から近くにする	てこでは、作用点を支点から近くにするほど、重いものを小さな力で持ち上げることができます。
問15	答え てこのつり合いのきまり	てこがつり合うとき、左右の「おもりの重さ×支点からのきより」が等しくなることを「てこのつり合いのきまり」といいます。
問16	答え 手ごたえが小さくなり、小さな力で持ち上げられる	作用点が支点に近づくほど手ごたえは小さくなり、より小さな力で重いものを持ち上げられるようになります。

- 問1 てこを使って重いものを持ち上げるとき、手でてこを押し下げたり引き上げたりして、力を加える位置のことを何といいますか。
- 問2 てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、どのような計算で求めることができますか。
- 問3 理科の実験などで、手で押ししたり引いたりする「力」を目に見える形で表したいとき、どのようなものにおきかえて表すことができますか。
- 問4 はさみやくぎぬきなどの道具で、作用点と力点の間にある点はどれですか。
- 問5 てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを何といいますか。
- 問6 てこを使って重い物を持ち上げるとき、てこを支える位置のことを何といいますか。
- 問7 1点でささえられた棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを何といいますか。
- 問8 力点と支点の位置を変えないとき、重いものをより小さな力で楽に持ち上げるためには、作用点をどのように動かせばよいですか。
- 問9 てこを使って重いものを持ち上げるとき、そのものに力がはたらいっている「作用点」では、どのようなことが起こっていますか。
- 問10 てこを利用した道具である「はさみ」を使うとき、指で握って力を加える部分は、てこの何にあたりますか。
- 問11 てこのつり合いのきまりによると、てこがつり合っているとき、「左のおもりの重さ×左のうでの支点からのきより」の値は、右側のどのような計算から求められる値と等しくなりますか。
- 問12 てこを使って重いものをできるだけ小さな力で楽に持ち上げたいとき、支点と作用点の位置を変えないとすると、力点の位置をどのようにすればよいですか。
- 問13 つり合っているてこでは、左右のうでの「てこをかたむけるはたらき」はどうなっていますか。
- 問14 力点と支点の位置を変えずに、作用点を支点に近づけて重いものを持ち上げるとき、手ごたえと必要な力はどうなりますか。
- 問15 てこを使うとき、支点と作用点の位置を変えずに、力点を支点から遠ざけていくと、手ごたえや必要な力はどのように変化しますか。
- 問16 てこのうでをかたむける力の大きさを表すもので、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表されるものを何といいますか。

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 力点	てこを動かすために、手などで直接力を加える位置のことを力点といいます。
問2	答え おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）	てこのうでをかたむけるはたらきの大きさは、おもりの数（力の大きさ）と支点からのきより（長さ）の「積（かけ算）」で表されます。
問3	答え ものの重さ	力の大きさは、台ばかりなどの目盛りを使って、ものの重さにおきかえて表すことができます。
問4	答え 支点	はさみやくぎぬきは、支点が作用点と力点の間にある道具の代表的な例です。
問5	答え 作用点	てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを「作用点」といいます。
問6	答え 支点	てこを支える位置のことを「支点」といいます。
問7	答え てこ	1点でささえた棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを「てこ」といいます。
問8	答え 支点に近づける	力点と支点の位置を変えない場合、作用点を支点に近づけるほど、小さな力で重いものを持ち上げることができます。
問9	答え ものに力がはたらく。	作用点は、てこを使ってものに力がはたらく位置のことです。手で力を加える位置は力点、てこを支える位置は支点です。
問10	答え 力点	はさみを使うときに指で握 ^{にぎ} って力を加える部分は、てこに力を加える位置である「力点」にあたります。
問11	答え 「右のおもりの重さ×右のうでの支点からのきより」	てこのつり合いのきまりでは、左右それぞれで「おもりの重さ」と「支点からのきより」をかけ算した値が等しくなります。
問12	答え 力点を支点から遠ざける。	てこを楽に使うためには、力点を支点から遠ざけることで、手ごたえを小さくして小さな力で持ち上げられるようになります。
問13	答え 左右で等しくなっている	つり合っているてこでは、てこをかたむけるはたらきが左右で等しくなっています。
問14	答え 手ごたえが小さくなり、小さな力で持ち上げられる	作用点が支点に近づくほど手ごたえは小さくなり、より小さな力で重いものを持ち上げられるようになります。
問15	答え 手ごたえが小さくなり、小さな力で持ち上げられるようになる。	支点と作用点の位置を変えないとき、力点が支点から遠ざかるほど手ごたえは小さくなり、小さな力で重いものを持ち上げることができます。
問16	答え てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ	てこのうでをかたむける力の大きさは、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表され、これを「てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ」と呼びます。

- 問1 てこのうでをかたむける力の大きさを表すもので、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表されるものを何といいますか。
- 問2 てこのつり合いのきまりによると、てこがつり合っているとき、「左のおもりの重さ×左のうでの支点からのきより」の値は、右側のどのような計算から求められる値と等しくなりますか。
- 問3 てこを使って重い物を持ち上げるとき、てこを支える位置のことを何といいますか。
- 問4 台ばかりを上から指で押しおしたときに、針が100gを示したとします。このとき、指が加えている「100g」という値は、何の大きさを表したものでしょうか。
- 問5 てこを利用した道具である「はさみ」を使うとき、指で握^{にぎ}って力を加える部分は、てこの何にあたりますか。
- 問6 てこを使って重いものをできるだけ小さな力で楽に持ち上げたいとき、支点と作用点の位置を変えないとすると、力点の位置をどのようにすればよいですか。
- 問7 てこの仕組みを使った道具のうち、力を加える部分（力点）が、支える部分（支点）と仕事をする部分（作用点）の間にある道具を何と呼びますか。
- 問8 1点でささえたい棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを何といいますか。
- 問9 てこを使って重いものを小さな力で持ち上げるとき、力点と支点の間隔^{かんかく}はどのようにすればよいですか。
- 問10 はさみで紙を切るとき、2つの刃^はが交わっていて、はさみ全体を支える位置にあたる部分を何といいますか。
- 問11 空きかんつぶし器は、てこの仕組みを利用した道具です。この道具において、支点と力点の間にある部分はどこですか。
- 問12 てこの仕組みを使って重いものを持ち上げるとき、力を加えるものはどれですか。
- 問13 てこがつり合うとき、左側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値と、右側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値が等しくなるというきまりを何といいますか。
- 問14 理科の実験などで、手で押しおしたり引いたりする「力」を目に見える形で表したいとき、どのようなものにおきかえて表すことができますか。
- 問15 てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを何といいますか。
- 問16 力点と支点の位置を変えないとき、重いものをより小さな力で楽に持ち上げるためには、作用点をどのように動かせばよいですか。

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ	てこのうでをかたむける力の大きさは、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表され、これを「てこのうでをかたむけるはたらきの大きさ」と呼びます。
問2	答え 「右のおもりの重さ×右のうでの支点からのきより」	てこのつり合いのきまりでは、左右それぞれで「おもりの重さ」と「支点からのきより」をかけ算した値が等しくなります。
問3	答え 支点	てこを支える位置のことを「支点」といいます。
問4	答え 力の大きさ	台ばかりを指で押し ^{おし} したときの重さの示し方は、指が加えている力の大きさを表しています。
問5	答え 力点	はさみを使うときに指で握 ^{にぎ} って力を加える部分は、てこに力を加える位置である「力点」にあたります。
問6	答え 力点を支点から遠ざける。	てこを楽に使うためには、力点を支点から遠ざけることで、手ごたえを小さくして小さな力で持ち上げられるようになります。
問7	答え 力点が間にある道具	力を加える「力点」が、支える「支点」と仕事をする「作用点」の間にある道具のことを「力点が間にある道具」と呼びます。
問8	答え てこ	1点でささえた棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを「てこ」といいます。
問9	答え 力点を支点から遠くにする	てこでは、力点を支点から遠くにするほど、重いものを小さな力で持ち上げることができます。
問10	答え 支点	はさみの刃 ^は が交わる部分は、はさみを支える位置である「支点」にあたります。
問11	答え 作用点	空きかんつぶし器は、作用点が支点と力点の間にある道具の例です。
問12	答え ささえた棒	てこは、1点でささえた棒に力を加えることで、重いものを持ち上げる仕組みです。
問13	答え てこのつり合いのきまり	てこがつり合うとき、左右の「おもりの重さ×支点からのきより」が等しくなることを「てこのつり合いのきまり」といいます。
問14	答え ものの重さ	力の大きさは、台ばかりなどの目盛りを使って、ものの重さにおきかえて表すことができます。
問15	答え 作用点	てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを「作用点」といいます。
問16	答え 支점에近づける	力点と支点の位置を変えない場合、作用点を支점에近づけるほど、小さな力で重いものを持ち上げることができます。